

あなたも めざせ！世界遺産登録 参加しませんか？

史跡めぐりで登録推進を応援 NPO 法人 鎌倉ガイド協会



世界遺産候補の仮粧坂をガイド

同協会は平成3年、鎌倉市の施策として、鎌倉を訪れる人たちに、史跡・歴史等を解説することにより鎌倉の良さを理解してもらうことを目的として「鎌倉シルバー・ボランティアガイド協会」の名称で発足しました。その後活発な活動を続けていましたが、昨年12月、新たに「特定非営利活動法人 鎌倉ガイド協会」として発足しました。

現在では約100名の会員が在籍していて、毎月開催の定例3コース、個別に依頼されるガイド、修学旅行等のご案内を通して、年間約25,000名の参加者の方々に鎌倉の良さを紹介し楽しんでいただいています。

同協会は世界遺産登録についても大きな力を注いでいます。具体的には、協会で毎月の自主研修の場に専門家の講師を招いて候補遺産等の勉強会を実施し、毎月の定例史跡めぐりコースに組み入れたり、推進協議会が主催する「武家の古都・鎌倉塾」現地講義のガイドをしたり、個別のコース等の案内でも紹介するようにしているとのこと。

川合会長は、「今後とも様々な活動を通じて、世界遺産登録を応援していきます。」と話してくれました。

車内まるごと世界遺産ギャラリー 江ノ島電鉄株式会社



世界遺産候補の社寺が車体を飾る、江ノ電「S.K.I.P」号

江ノ島電鉄株式会社では、2004年より地元湘南の情報を発信するための電車「S.K.I.P（スキップ）号」を運行しています。

この「S.K.I.P号」では、沿線の神社仏閣の案内やアジサイ情報を発信したり、車内をまるごとギャラリーにして湘南にゆかりのある10人のアーティストの作品を展示した「EN send 10（沿線展）」などを開催してきました。

そうした活動の一環として、鎌倉の世界遺産登録の候補地となる鶴岡八幡宮や鎌倉大仏、建長寺などの写真を車体に貼り付けたラッピング電車に、世界遺産登録に向けた考え方や候補地となる社寺や遺跡について紹介した中吊り広告を掲示した「S.K.I.P号」が運行され、「あの中吊り広告が欲しい」といった要望や「中吊り広告にある遺跡にはどうすれば行けるのですか？」といった質問など、様々な反響が鎌倉市にあったそうです。

「鎌倉の神社やお寺、遺跡が世界遺産に登録されるのは大変望ましいことです。これから色々な側面から鎌倉の世界遺産登録を応援していきたいと思います。」と、経営企画部の君塚利啓さんは抱負を語ってくれました。

「古都鎌倉の世界遺産登録」って なに？

現在、源頼朝の墓塔などがある法華堂跡は、国指定史跡としての正式名称を法華堂跡（源頼朝墓・北条義時墓）といます。その名のとおり、武家政権の創始者・源頼朝と北条義時を供養する法華堂というお堂があった場所です。

源頼朝は、奥州合戦出陣中に大倉御所の後ろの山腹に自分の持仏である観音像を祀る御堂を建てるよう命じました。この御堂は頼朝の死後は法華堂と呼ばれました。宝治元年（1247）当時の法華堂内には、供物を捧げる場所や源頼朝の肖像画などがあったようです。石段下の白旗神社付近を含めて、鎌倉時代から明治初めの廃仏毀釈までお寺があり、法華堂や頼朝の頃からの遺品などを管理していました。

鎌倉時代の法華堂は、政権創始者の廟所として崇められ

第9回 法華堂跡はどんなところ？（前篇）

ていました。『吾妻鏡』には、第3代執権・北条泰時が、頼朝の命日に、頼朝の生前同様、堂に上がらずに参詣した話や、北条氏と三浦氏が戦った宝治合戦（1247年）で、三浦一族が頼朝の御前で最期を遂げようと立て籠もったことが記されています。

法華堂の建物は鎌倉時代以降に失われました。頼朝の墓塔は、1616年に林道春が漢詩を詠んでいることから、このころまでに建てられていたようです。源頼朝の墓周辺は、頼朝の末裔と称していた薩摩（鹿児島）の大名・島津氏によって1779年に整備されました。このように法華堂跡の源頼朝墓は、江戸時代まで武家政権の創始者の廟所として大切に守られてきた場所だったのです。